

1. 次の英文を和訳せよ。

Public debt has overall further reduced in the EU in 2017, supported by the continuing economic recovery, very favourable financial conditions and a broadly stable fiscal outlook. (中略)

Current better economic conditions should be used to re-build fiscal buffers in time to absorb new shocks when they come, not least a foreseeable rise in interest rates. At the same time, the economic outlook is still surrounded by uncertainties. Therefore, appropriate strategies need to be designed, aimed at strengthening fiscal sustainability, while not hampering the economic recovery. This requires in particular a differentiation of fiscal policy across Member States.

※注：Member States: (EU の) 加盟国

(European Commission, *Debt Sustainability Monitor 2017*, p.9.)

2. ある閉鎖経済（輸出入がない経済）において、消費関数が

$$C=145+0.75(Y-T)$$

ただし、C: 実質民間最終消費支出、Y: 実質 GDP、T: 租税（収入）

と表され、投資関数が、

$$I=200-10r$$

ただし、I: 実質投資（固定資本形成）、r: 利子率（単位：%）

と表され、貨幣需要関数が

$$L=200+0.3Y-5r$$

ただし、L: 実質貨幣需要

と表されるとする。また、中央銀行は、名目貨幣供給を（ちょうど貨幣需要と等しくなるように）450 だけ行い、政府は、租税を、

$$T=0.2Y-Z$$

となるように課したとする（Z は正の定数）。物価水準は 1 とする。このとき、下記の(1)～(7)について答えよ。

※注意：答案用紙には、途中の計算過程も残しておくこと（きれいに書いていなくてもよい）。正解と異なっていた場合には、計算過程の内容が重要になる。解答は、整数でなくてよいが、分数の場合はできるだけ既約分数で答えること。

(1) 実質政府支出 (G) と租税の係数 (Z) を含む IS 曲線と LM 曲線の式を、「 $r=\dots$ 」の形になるようにそれぞれ示せ（式を導出するだけでよく、図示は不要）。

(2) 政府が租税を、 $Z=180$ 、つまり

$$T=0.2Y-180$$

となるように課し、実質政府支出 G を 20 とするよう財政運営を行ったとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(3) (2) のとき、財政収支 ($T-G$) はいくらになるかを答えよ。

(4) いま、実質政府支出 G を 70 に増やしたとする。その際、増加分 ($70-20=50$) の財源を一旦市中消化による公債で賅ったとする。このとき、マクロ経済において実現する

均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(5) (4)のとき、財政収支 (T-G) はいくらになるかを答えよ。

(6) (3)と同様に、実質政府支出 G を 70 に増やしたときの増加分の財源の一部を租税で賄ったとする。その租税による財源は、 Z を変化させる形で対応して、 $Z=140$ としたとする。このとき、マクロ経済において実現する均衡での実質 GDP と利子率の水準はいくらになるかを答えよ。

(7) (6)のとき、財政収支 (T-G) はいくらになるかを答えよ。

3. 次のミクロ経済学に関する①～⑤の記述について、正しい場合は○、間違っている場合には×をつけて答えよ。また、誤っている×の記述について、その理由を簡単に答えよ。

- ① 縦軸を価格、横軸を数量とした図において、需要曲線が右下がり、供給曲線が右上がりとなる財について、消費者の所得が増加すると、この財の均衡価格は上昇し、取引数量は増加する。
- ② 利潤最大化行動をとる完全競争企業において、損益分岐点に対応する生産量は平均可変費用が最低となる生産量で、操業停止点に対応する生産量は限界費用が最低となる生産量である。
- ③ 利潤最大化行動をとる完全競争企業において、利潤最大化された状態の生産量は、価格＝限界費用が成り立ち、利潤は正である。
- ④ 複占企業の行動がクールノー・モデルで表される場合、独占の場合と比べて生産量は過少になる。
- ⑤ 下級財（劣等財）である財は、所得が増えると消費量が減る。

4. <この問題は、時間に余裕がある場合に限り解答してもよい；解答しないからといって減点にはしない>

次のマクロ経済学やミクロ経済学に関する(1)～(5)の問いについて答えよ。

- (1) 経済全体の投資関数が、本設問2のように表されるとき、利子率が上昇すると投資の利子弾力性はどうか、理由も合わせて答えよ。
- (2) 複占市場において、企業 A と企業 B が同じ財を生産しているとする。市場の需要曲線は通常の仮定が成り立つとして、企業 A が先導者、企業 B が追従者としたときのシュタッケルベルク均衡において、企業 A と企業 B の生産量は、どちらが多くなるか答えよ。
- (3) トービンの q とは何か、定義を説明するとともに、その値がどのようになれば投資が増えるか、その理由も説明せよ。
- (4) パレート最適とは何か、その定義を答えよ。
- (5) ある経済においてオークンの法則が成り立っているとす。いま、完全雇用実質 GDP が 200、自然失業率が 5% で、それぞれ不変であるとする。ここで、失業率が 9% のとき、実質 GDP が 160 であったとする。もし失業率が 10% になったとき、実質 GDP はいくらになるか答えよ。